

【「わら」を題材とした授業実践例】

「わら」を題材として、生活の中で受け継がれてきた伝統・文化を学ぶ

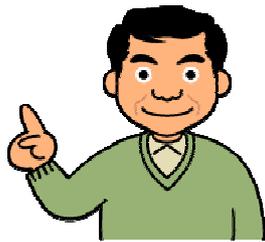


6年生の社会科学習で、生活の中で受け継がれ、地域に残っている農耕文化について扱う授業を実践してみませんか？

それなら歴史学習になると思いますが、どの単元でどのようなことを扱えばよいでしょうか？



時間数も限られているし、準備や教材研究が効率的にできる方法はないでしょうか？



まず、子どもたちが興味や関心を持って学習できるようにするために、子どもたちにとってイメージしやすい題材や事柄を扱いたいですね。

それから、今でも使われている・行われている、または、最近まで使われていたという文化・行事なら取り組みやすいでしょうね。

それなら、時代劇とか歴史ドラマなんかに登場するものだったら、子どもたちにも親しみやすいですね。



そうですね。そこで、「わら」を題材にしてみてもどうかと思っていますが・・・

「わら」ですか？
わらなら、「わらじ」とか「みの」、「米俵」なんかは、6年生でも知っている子がいるかしら？



稲がたくさんとれるようになれば、わらもそれだけ手に入るから、江戸時代の農民の生活を学習する時に扱えるかもしれないですね。

なるほど。確か江戸時代は、各地で新田開発や用水づくりが行われて、お米がたくさんとれるようになったし、年貢の事を学習するからちょうどいいですね。

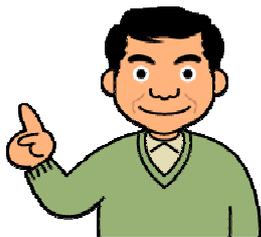
でも、わらを使ったものなんて実際どこにあるんですか？



一昔前までは、全国のほとんどの場所で米づくりがさかんに行われていました。

まず、わらで作ったものを探すなら、学校の郷土資料室に残されているでしょう。郷土資料室がなければ、地域の歴史資料館や民俗資料館、博物館なら確実に保存されているでしょう。

もしそういうものがあるなら、授業で子どもたちに見せたり、できれば触れさせたりしたいな。



いいですね。学校にある物なら大切に扱えば問題ないでしょう。他の施設からお借りする場合は、借用願を出して借りてくることもできるし、学芸員さんや研究員さんに来ていただき、授業の中で説明してもらったり、詳しくお話をしてもらったりすることもできます。資料館や博物館の皆さんも、学校の授業には積極的に協力してくれますよ。

もちろん、校長先生はじめ校内で詳しい先生がいればお願いしてもいいでしょう。

面白そうですね。

でも、できれば地域の方に聞いてみることもいいかなって思います。

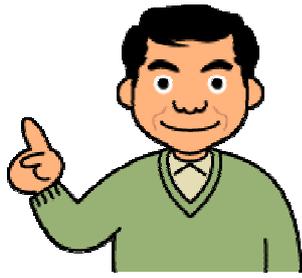


それはいいアイデアだね。学校の近くに水田が残っている地域なら、保護者や祖父母、地域の方の中にお米を作っている人がいますね。

まずは、そういう人を探して、地域の米作りのことや「わら」の使い方、それから農耕にかかわる言い伝えなどの文化についてのお話を聞いてみましょう。

実際に、わらを使ったものが見つかったり、詳しい人と連絡がとれたりしたら、どの場面でどのような授業を構成すればよいでしょうか？





江戸時代だから、厳しい身分制度の中でも生産を高めようとした農民の工夫や努力について考える学習はどうでしょう？

江戸時代は、室町時代や戦国時代に比べて耕地面積が格段に広がっています。「耕地面積が広がる」→「お米がたくさん取れる」→「人々の生活が豊かになる」→「稲がさらにたくさん取れる」→「わらもたくさん取れる」・・・こうした流れの中で「たくさん取れるようになったわらをどう使ったか？」とか「どうしてそんなにわらを大切に使ったのか？」といったことを考える学習ができそうですね。

でも、私自身が「わらの使い方」についてよく知らないので、少し勉強しないといけないと思います・・・



それなら、ここに「わらに関する副読本」や「参考事例の指導案」があるから是非目を通して見て下さい。わらは、布やビニール、プラスチックなどが広く使われる前までは、身の回りで当たり前のように使われて、人々の生活になくはならない物だったんです。

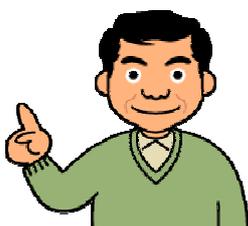
それに、わらは、牛馬のえさや田畑の肥料になるし、燃やして残った灰ですら肥料として撒かれるくらいですから、循環型社会の代表的な材料でもあります。それだけでなく、お正月の注連飾りやどんど焼き、火祭りなど、今なお大切に使われていますね。そういったことへの話題が広がっていくんじゃないかな？

なるほど、おもしろそうですね。

歴史学習の中で、地域に残るものとか文化なんかをどこかで扱いたいと思っていましたが、「わら」なら扱えそうな気がしてきました。



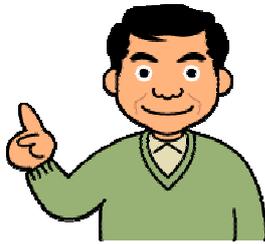
そうですね。今お借りした「副読本」の写真をちょっと見ただけでも、いろいろなことにわらが使われていたことがわかりますよ。
これだけ使われていたっていうことは、よっぽど大切なものだし、使い終わってもまた肥料になって米の生産に役立つなんて本当にすごいですね。



その通りです。わらは、ありとあらゆるものに使われていたんですね。当時の人々は、わらのよさを存分に活かしていました。

一方、わらに代わるものはないわけですから、「わらを使わざるをえなかった」とも言えますね。「わらをどんなふうに使ったか？」とか、「どうしてわらを使ったのか？」とか、考える視点もいくつかあります。子どもたちの実態や集められそうな資料、お聞きできそうなお話と合わせて、授業を組み立ててみて下さい。

最後に、「わら」をあつかった授業で、何か工夫できることはありますか？



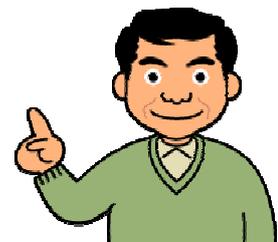
やる気になってきたみたいですね。
「わら」は、使い方がいろいろあるから、話題は広がっていき、つながっていきます。
例えば、「わらじができれば、遠くへ行きやすいから、人々は旅に出やすい。旅には、みのは欠かせない。」とか「米がたくさん取れるから、米俵を作って運びやすくする。そうすれば、遠くまで運べる。運ぶ人はわらじを履いてみのも持っている」といったようになります。「参考事例の指導案」の後半にも載っていますが、わらを中心にウェビングで「わらの世界」を広げていくと、楽しく学習できるでしょうね。

まずは、「わら」について自分で実際に調べてみます！！



教材研究や授業のことで、何か困ったことがあったら、またお聞きします。

いつでもどうぞ！！



参考文献

- 「図説・藁の文化」 宮崎 清 (法政大学出版局) 1995 年
「ものと人間の文化史 藁 I・II」 宮崎 清 (法政大学出版局) 1985 年
「藁の力ー民具と心と形ー」 佐藤健一郎 (淡交社) 1996 年

【副読本】

～藁(わら)を使った生活用品～



①藁縄 わらなわ 藁を編み、わら 縄 (ロープ) として使
あ います。



②米俵 こめだわら お米をつめる袋として使
ふくろ います。



③草鞋 わらじ 藁で編んだ草履 (サンダ
ぞうり ル) として使用します。



④わらぐつ 地域によって呼び方は違
います。冬の期間の草履 (サンダル)
として使用します。



⑤ねこ いたぶ 板葺きの床に敷き、今の
し 畳やジュータンの代用品です。



⑥ねこを編んでいくところです。
用途・大きさにより薦ともいいます。



⑦つぐら 赤ちゃんを入れるもので、今のベビーベッドの代用品です。



⑧えびら かま くぎ 鎌や釘などの金物の道具をさして保管するもので、サビを防ぎます。



⑨すくら かいこ まゆ 蚕が繭をつくる棚です。



⑩筵づくり むしろ むしろ 筵は藁で編んだ敷物で、⑤のねこの小型にしたものです。



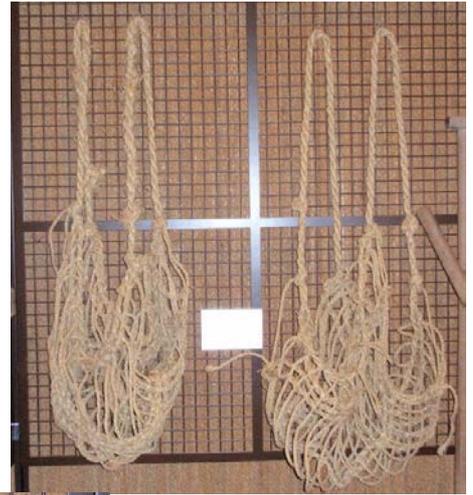
⑪ みの みのがき 蓑・蓑笠・ぐつ こんごう・藁靴
蓑は現在の雨具のカップ、蓑笠は帽子、草鞋・こんごはサンダル、藁靴はスノーブーツのようなものです。



⑫ かんじき 標 ふ 雪深い地域で、雪の中に踏み込まないように、はきものの下につけます。



⑬もっこ 藁縄を網状に編み、四隅につりひもをつけ、土芥・肥料・農産物などを運ぶ用具です。



⑭ 馬わらじ →



← ⑮ 牛ぐつ



⑯藁苞（わらづと） 中にもものを入れるように藁をたばねたもの。写真は作物や樹木を寒さから防ぐためのもの



⑰作物の保温に使ったり、もみがらを焼いたり、藁を細かく切って、肥料に使ったりもします。



～藁を使った祭具(お祭の道具)～



①藁馬 地域によって玩具(おもちゃ)・厄除け・豊作祈願など、目的はさまざまです。



②道祖神 写真は長野市大岡の道祖神です。集落の境や道路の分岐点に祭られ、集落の安全を守る神様です。



③注連飾り お正月に門などの飾りとして使用します。



④神社の注連縄 神さまを祭る場所を示しています。



⑤結納三式 (右から鯛・鯛・昆布) 結婚の約束として交換する品物です。一般的には実物の鯛・鯛・昆布を用いますが、海のない山村では、三品を藁でつくって納める地域もありました。

写真提供 七二会歴史資料館
豊野町郷土資料館
長野市立博物館 他

学習指導案

小学校6学年 学習指導案(単元展開例)

1 単元名 「江戸時代の農民の暮らし」

2 単元の概略

江戸時代からの用水開発によって急速に新田が増え、戦後まで町の耕地のほとんどが水田であった豊野町において、農耕によって作られたものや生産や生活に使われた道具、農耕にもとづいた伝統文化について学習する。

まず、「御触書」等を手がかりに、江戸幕府が、厳しいきまりや身分制度によって社会の大多数を占めた農民を支配していたことを学習し、そのような中で、新田開発や用水の整備によって、耕地面積や石高が増えたことにより、農民の生活はどうなったかに焦点を当てる。

続いて、収量増加や道具の改良によってできた「わら」を使った道具や物について学習し、それらが農耕文化として、人々に受け継がれてきたことを学習する。

米の生産によって得たわらは、さまざまな物や道具に加工され、人々に利用されていたことや、それらのわらが、再利用されて最終的には米の増産に役立っていたことを追究することを通して、当時の人々は、自然に感謝しながら、循環型の社会を作り出していったことを理解させる。

さらに、わらを通しての収穫の喜びや、家族・地域の繁栄を願っていたことにも気づかせる。

3 伝統・文化等に関する教材化の視点

- (1) 耕地が広がり、石高が増えることで、農民の生活はどのように変わっていったのかを、当時の農具や道具の開発、それらの役割などからとらえることができる。
- (2) 稲の生産が増加したことによって手にした大量のわらを使い、農民が、どのような物を作ったり、作ったものを使ったりしてきたかを考えることを通して、当時の人々の工夫によって生活が豊かになり、循環型の社会を作り出していったを理解する。
- (3) わらを使ったものは、生活ばかりでなく、お祭りや飾りなど自分たちの地域や現在の生活までに受け継がれていることを知り、それら文化や行事を大切に受け継いでいこうとする気持ちを持つ。

4 単元の概要

- (1) 「慶安の御触書」を読み、人口の大半を占める農民が厳しいきまりの中で生活していたことを知る。
- (2) 「江戸時代の農民の様子(絵)」や「田畑の面積の増加」の資料から、江戸時代に農業がさかんになっていったことを知る。
- (3) お米がたくさん取れるようになると、人々の生活はどのように変わるかを考える。稲の収穫後に残ったわらの使い道を考える。

(4) わらを使って、お百姓さんはどんなものをつくったのか考え、ノートにまとめる。

(5) <本時>

(6) 道具や物になったわらが、その後どのようなようになるかを考えると同時に、わらは、循環型社会の大切な材料であったことを知る。

5 本時の主眼

新田開発や石高の増加で、わらを大量に手にした百姓たちが、わらで何を作ったかを考えた子どもたちが、実物やイラストを使ってわらの使い方を発表し、使い方の関連やつながりを考えたり、どんど焼きの由来や各地区のどんど焼きについてのお話を聞いたりすることを通して、わらによって人々の生活がより便利で豊かになり、わらを使ったものが現在の生活まで受け継がれていることがわかる。

6 指導上の留意点

(1) 発表の際に、カードを黒板に貼ったり、実物を教室の中央に置いたりして、イメージをふくらませやすくする。

(2) 発表したカード同士の関連やつながりを、線や言葉で補足することにより、わらを使ったものが、人々の生活全体を豊かにしていたことに気づかせていく。

7 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導・支援・◎評価	時
導入	1 考えたことを、カードや実物を使って説明する。	<p>お百姓さんたちは、わらを使ってどんなものをつくったのだろう？</p> <p>わらじ・わらぐつ</p> <ul style="list-style-type: none">・移動が楽になる。・遠いところに行ける。 <p>かさやみの</p> <ul style="list-style-type: none">・雨の日に仕事ができる。・旅に持って行ける。 <p>米俵</p> <ul style="list-style-type: none">・米を長持ちさせられる。・量りやすく、運びやすい。 <p>なわ</p> <ul style="list-style-type: none">・丈夫で使いやすく、どんな時にも使える。 <p>屋根</p> <ul style="list-style-type: none">・瓦の替わりになる。 <p>肥料</p>	<p>○学習問題を確認する。</p> <p>○わらで何を作ったのか、考えたことを発表させていき、まとめたものを掲示したり、実物を展示したりする。</p>   	12

○その道具やものを作ると、どんな

		<ul style="list-style-type: none"> ・もっと米が取れるようになる むしろ ・暖かくて、それをひいてわらで縄が作れる。 	<p>よいことがあるかをはっきりさせていくような言葉がけをする。</p>	
展	<p>2 友達の発表や実物を見て、道具やものの関連やつながりについて気づいたことを発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで貴重だったわらじがたくさん作れると、かさとみのもを持ってもっと遠くまで行ける。 ・わら屋根で小屋を造って、わらでつくった米俵にお米を入れて保管しておく。 ・袋を作り、それに野菜やわらで作った物を入れて、街に売りに行く。 ・むしろを作ったり畳の芯に使ったりすれば寒くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の発表を聞いて思ったことやもっと知りたいことなどがあれば発表させる。 ○友達の考えや実物を見て思ったことを発表し合う中で、道具やものの関連やつながりに焦点を絞りながらまとめる。 ○作った物→ 使い方→ 生活の便利さや豊かさ→ といったつながりを板書で確かめる。 	10
開	<p>3 今でもわらを使っているものがあるかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今は、ビニールやプラスチック、ナイロンに変わっているものが多い。 ・しめなわや注連飾りは、わらじゃないとおかしいな。 ・肥料としては、ずっと使い続けている。りんごの木の下に敷いたり畑や田んぼにまいたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「今の生活でわらを使っているもの（こと）があるかな？」と発問し、考えたことを発表させる。 ○黒板の図や実物から、現在は多くが別の素材や道具に変わっていることと、しめなわやどんど焼きには現在までわらが使われていることに気づかせる。 	5
	<p>4 どんど焼きの写真を見た感想を発表したり、校長先生のお話を聞いたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年つくっているどんど焼きだけど、地区毎に形が違うのは初めて知った。 ・燃やすものを2つ作って、男女を表すなんて面白いな。 ・わらに願いや感謝の気持ちを込めていたんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各地区の「どんど焼き」の写真を提示し、気づいたことを発表させる。 ○学校長から、どんど焼きの由来や楽しみ方を話してもらう。 (地域の年配の方の話でも可) 	10
ま	<p>5 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わらがたくさん使えらると、お百姓さんの生活は、とても楽になり、収穫も増えた。 ・わらによって、生活に楽しみ 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードに、「わらによって人々の生活はどう変わったか」をまとめ、本時の感想を記入するように指示する。 	

と め	<p>とか余裕ができてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらで作った道具や物によって、旅行とかしきものとか今の生活と同じようなことができるようになった。 ・農民の生活は、大変だと思っていたけど、稲やわらがたくさんとれると、豊かになっていったと思う。 ・使い終わったわらはどうなるのかな？ 	<p>○児童のまとめの様子を見ながら、うまく文章にできない児童を支援する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◎友だちの考えや資料から、わらによって人々の生活が豊かになり現在まで受け継がれていることがわかったか。</p> <p style="text-align: right;">(発言・学習カード)</p> </div>	8
--------	---	---	---

8 授業の記録(児童のノートより)

No. _____
Date _____

家の屋根 ^{防し} 防寒・防風・雨に守られている。

家の屋根 (中心: 防し)

- わらじ・わらぐつ
 - 江戸 (便利ない)
 - 遠くへ (見たい)
 - 京都・奈良 (大仏)
 - お金
 - 売る
 - 物入れ (物をはこぶ)
 - らくらく (とにかく便利)
 - しめだし (楽しい)
 - 糸内豆 (豊作)
 - 神楽 (豊作)
 - 天竺 (豊作)
 - 自研
 - 他のこと (かごまき)
 - 売る
 - 米俵 (たこさん)
 - 仕事かきやり (とうみ, かま)
 - 服
 - からあ
 - きかい
 - くわ
 - 牛馬の糞 (育てる)
- 快適 (雨, 風, 雪)
 - たたまのしん
 - むしろ

まとめ

わらによって人々の生活は豊かになっていった。わらじ・わらぐつは
 歩きやすくて遠くまでいけて便利。
 わら束にもたくさん使い道があることが分かった。

